

# 三刀屋地区まちづくり協議会

## 1 三刀屋地区の概要

[平成 27 年 4 月末現在]

人口	2, 575	世帯数	956	高齢化率	28.8%
学校	保育所 1、小学校 1、中学校 1、高等学校 1				

三刀屋地区まちづくり協議会（以下「当協議会」という）がある三刀屋地区は、雲南市のほぼ中央に位置しており、国道 54 号線沿いの三刀屋インター付近大規模店立地地域と三刀屋旧市街地の二つの地域から成り立っている。当協議会の事務所は三刀屋交流センター内にあり、交流センターの前には三刀屋川が流れ、堤には約 3 キロメートルわたり桜並木でソメイヨシノや御衣黄（ぎょいこう）が植えられ、春には多くの花見の観光客でにぎわう。また近くには、「三刀屋天満宮」や「永井隆記念館」もある。

## 2 三刀屋地区まちづくり協議会の概要

### （1）三刀屋地区まちづくり協議会とは

雲南市には、地域におけるコミュニティ機能を自分たちで補う「地域自主組織」という仕組みがある。地域自主組織は、概ね小学校区単位にある住民組織で、自治会・消防団・PTA・老人クラブといった各種団体が構成されており、交流センターを活動拠点として、地域づくり・地域福祉・生涯学習（社会教育）の 3 本柱の分野を中心に、様々な活動を展開している。当協議会もこの地域自主組織のひとつである。

### （2）地域の課題

当協議会のある三刀屋地区も雲南市の他の地域と同様、少子高齢化が進み、自治会の体力が低下し、地域の絆も希薄化しつつある。特に三刀屋旧市街地では、（旧市街地の人口 1242 人、世帯数 386 世帯、自治会の大半は高齢化率 40% 以上の自治会）一人暮らしや空き家の増加に加え、商店の閉店が相次ぎ、買い物が困難となっている住民もいる。そのため、自治会の維持さえも危ぶまれている現状である。

また、住民を対象としたアンケートからも、1 地域の人口減少、少子高齢化の進行 2 地域活動のリーダーや担い手の不足 3 商店の減少という課題が明らかになった。このような状況をふまえ当協議会では地域住民が互いに支え合い、より安心安全な暮らしを実現できるような地域や人材を作り出す事業を展開していこうと考えた。

### （3）課題解決に向けた当協議会の戦略

そこで、当協議会では、「子どもからお年寄りまでみんなが集まって、病気であろうがなかろうが、障がいがあろうがなかろうが地域の人々の健康と安心につながる地域の再生を目指す拠点づくり」を目指すことにした。具体的には地域の人々が気軽にお茶を飲みながら互いに交流しあい、健康な生活を営むことができるような拠点として、「みとや世代間交流施設 ほほ笑み」を立ち上げようと決心した。

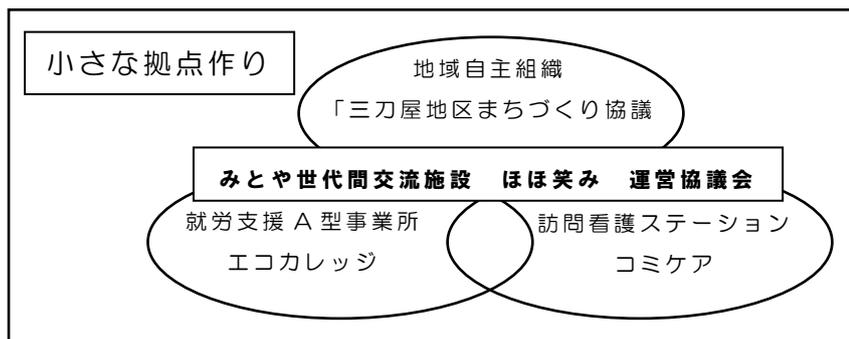
## 3 特色のある取組

### 「みとや世代間交流施設 ほほ笑み」

#### （1）具体的な取組

この「みとや世代間交流施設 ほほ笑み」は、訪問看護ステーション『コミケア』、就労支援 A 型事業所『エコカレッジ』、地域自主組織『三刀屋地区まちづくり協議会』の三者が共同運営している。施設の開校にあたっては、まず、三者での運営協議会を立ち上げ、「ほほ笑み」が地域再生を目的とした「小さな拠点づくり」となるよう協議した。このように、地域・健康福祉・産業を担う三者が協働で地域再生を目的とした拠点づくりを行う活動は

全国的にみても珍しい取組ではないかと思われる。



コミケアによる健康相談

この「みとや世代間交流施設 ほほ笑み」は交流・健康・書店再生の3つの事業を展開している。三者がそれぞれの持ち味を活かし、地域の人が一人ひとり健康で安心して暮らせる地域再生を目指す取組を行っている。それぞれの担当分担任としては、

- ①交流の場・生きがいの場の創出は当協議会が担う。  
茶飲み場、ものづくり教室、障がい者・小中校生との交流など
- ②看護サービスや健康情報等の提供はコミケアが担う。  
訪問看護事業、健康サロン、若手医療人材の受け入れなど
- ③就労支援・書店再生および生活支援はエコカレッジが担う。  
障がい者就労支援、古本販売、地域清掃、空家維持管理など



交流の場としての「ほほ笑み」

平成 27 年 6 月 30 日の仮オープンに向けて、「自分たちでできることは自分で」を合言葉にして地域住民をはじめ、コミケアやエコカレッジの職員の皆さんと協働して準備をした。そして 6 月 30 日の仮オープンを経て、11 月 5 日本格的に「ほほ笑み」がスタートした。130 名の来場者も笑顔でオープンセレモニーに参加した。

### (2) 成果

今年度よりスタートした「みとや世代間交流施設 ほほ笑み」では、11 月のオープン後、月に 2 回サロンを開催し、たくさんの人々に来ていただき交流を図ることができた。また、来場した人に対して健康に関する啓発活動も同時に行うことができ、町の小さな拠点として機能を果たすことができたと思われる。

このように当協議会が、住民の要望を踏まえて立ち上げた「ほほ笑み」は、エコカレッジとコミケアが加わることによって、住民生活の大きな下支えとなって住民の安心感につながっていると考える。

### (3) 今後の方向性

今後の取組として、三刀屋地区にある高校と連携し、若い世代と高齢者世代との交流のかけはしとなるよう高校生の学習支援やキャリア教育の拠点としても「ほほ笑み」を活用したい。また、たくさんの人が「ほほ笑み」を活用することによって、住民自らが新しい地域を作り出していこうとする強い意思を高めるための拠点にしたい。

当協議会は従来の地域の仕組みを見直し、新しい仕組み作りにチャレンジすることに取り組んでいきたいと考えている。